



知床科学委員会

しんぶん

エゾシカ・陸上生態系

ワーキンググループ NO. 6



「知床で今何が起きているの!?!」「どんな調査が行われているの!?!」など、タイムリーな情報をお伝えします。

エゾシカ・陸上生態系 ワーキンググループって?

知床半島で、エゾシカや陸上生態系の管理をどのように進めるのか議論するための会議です。

この会議での意見をもとに、さまざまな事業が進められています。

今回の会議

9月29日(日)に釧路地方合同庁舎にて、今年度第2回目の会議があり、裏面のようなことを話し合いました。

必見!
TOPIC

遺産地域内でいつまでエゾシカを捕獲するの?

知床世界自然遺産地域内でのシカ捕獲は、知床岬先端部を皮切りに2007(平成19)年度から続けられています。

最近、「いつまで捕獲を続けるのか?」という質問を、斜里・羅臼両町の町民の方から受ける機会が増えてきました。

その答えは、「**植物(下草と樹木)が十分に回復するまで**」です。



現在の知床岬の草原。ササやイネ科の草が大部分。



シカから植生を守るために設置された柵の中は...



昔のように丈の高いセリの仲間が生えている

へえ〜、こんなに違うんだね。

これくらいまで植生を回復させるのが目標です。

知床岬のように、これまでの捕獲事業の成果でシカが大幅に減った場所では、今までと同じ労力や予算をかけて捕獲する必要はありませんが、捕獲を完全にやめるわけにはいきません。

なぜなら、シカの数には4年で2倍に増えますし、周辺から移動してくるシカもいます。シカが植物を食べる量は、シカの生息密度(1平方キロあたりの頭数)と関係しているため、植物を回復させるためには、シカの低密度状態を長期間維持する必要があるのです。

今後もシカと植物を中心とした調査を続けながら、低密度状態を維持するためのシカ捕獲が、それぞれの場所の状況に応じた頻度や手法で続けられる予定です。

この冬の計画については裏面を見てね!

